

# 希望の光

(明治四十二年寮歌)

加藤茂男 君 作歌

金原善知 君 作曲

一

希望の光 仰ぎつつ  
おもへば 友と尋ね来し  
山は 紅朝日子の  
燃ゆる姿に似たる哉  
嘶く駒は 秋に肥え  
我等が門出栄ありき

二

ああ 冬寒し 北国の  
大野の果を眺むれば  
雪か あられか 空たえて  
限りは 知らず 暮るとも  
我等が胸に 黙想あり  
星の光に 啓示あり

三

黙想を胸に 結ぶ時  
啓示を空に 望む時  
見よ 下萌ゆる 若草の  
息吹さやかに 風薫る  
春は 来れり 春は 来ぬ  
物皆 此処に 力あり

四

春の光の 照る所  
色を 交へて 咲く花に  
蝶舞ひ 鳥は 轉りて  
我等が 血潮 躍るなり  
斯くて 見渡す 行手には  
光 蔽はん 影もなし

五

深く 霞に 鎖されて  
都の 様は 知らねども  
夕 孤雁の 声聞けば  
人太平に 眠るとや  
吹雪に 練りし 双の腕  
鳴るよ 常盤の 夢醒ませ

六

四年の 昔人々の  
転り 建てし 我が寮に  
春立ち 還る時 今  
希望の 光 新なり  
さらば 起て 友諸共に  
我等 起つべき 時なれば